

# 中津城下町遺跡27次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2022

中津市教育委員会

## 序

大分県の最北部に位置する中津市は、国指定名勝耶馬渓など緑豊かな自然や城下町の香りを色濃く残す、自然と文化の町として知られています。近年は、自動車関連会社などの進出を受け、工業の町としての新たな側面を見せはじめています。

本年度、市内では民間開発に伴う発掘調査が行われ、県道拡幅に伴う発掘調査も大分県教育委員会により実施されております。

本書はこうした開発の中で、中津城下町遺跡において行われた集合住宅建設に先立つ発掘調査の報告書です。調査により江戸時代の土坑などが発見されました。

本書が学術研究資料としてはもとより、埋蔵文化財の保護や活用への一助となりましたら幸いです。

最後に、発掘調査から報告書刊行に至るまでご協力賜りました株式会社大英興産代表取締役 熊谷大輔様をはじめ、調査に従事して下さった方々に対し深甚から感謝申し上げます。

令和4年3月31日

中津市教育委員会

教育長 粟田 英代

## 例　　言

1. 本書は大分県中津市教育委員会が平成26（2014）年度に実施した中津城下町遺跡27次調査の発掘調査報告書である。
2. 確認調査は浦井が担当した。本調査は株式会社大英興産より委託を受けた中津市教育委員会が行い、萩が担当した。
3. 出土遺物の整理作業は、平成27～令和3年度に実施し、遺物は旧東谷小学校に保管している。
4. 遺物の洗浄・注記・実測・拓本・浄書・観察表作成等は、旧今津公民館・旧和田公民館にて行い整理作業員の協力を得た。
5. 本書の執筆・編集は浦井が担当した。

## 目 次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の成果	5
第4章 総括	22
写真図版	
報告書抄録	

## 挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	1
第2図 中津市内主要遺跡分布図	4
第3図 遺構配置図	5
第4図 SK-1・2・6・7・8・11・12平・断面図、SK-3・4・5・9平・断面上層図	8
第5図 SK-13~18・20~22・24~26・28~30平・断面図、SFK-1・SD-1 平・断面上層図	9
第6図 SD-2~4平・断面図、トレンチ平・断面上層図	10
第7図 SK-1~3出土遺物	11
第8図 SK-3・4出土遺物	12
第9図 SK-4~6・8出土遺物	13
第10図 SK-9・11~13出土遺物	14
第11図 SK-14~18・20~22・24・25出土遺物	15
第12図 SK-26・28~30、SFK-1、SD-1・2出土遺物	16
第13図 SD-2~4出土遺物	17
第14図 調査区北端2層出土遺物	18
第15図 調査区北端2層、検出時、上層検出時出土遺物	19
第16図 上層検出時1トレ・2トレ出土遺物	20
第17図 撹乱出土遺物	21

## 表 目 次

第1~4表 出土遺物観察表	23~26
---------------	-------

## 写 真 図 版 目 次

写真図版1 調査区（上層）全景 調査区（中層）全景	
写真図版2 SK-4 遺物出土状況 SK-9 完掘状況 SK-11 遺物出土状況 SK-15 完掘状況 SK-28 遺物出土状況 SD-3 完掘状況	
写真図版3 出土遺物	

第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至る経緯

平成 26 年 6 月 20 日、中津市 1516 番 1 (京町) 地内の埋蔵文化財包蔵の照会がなされた。照会地は中津城下町遺跡である旨回答し、平成 26 年 6 月 25 日、施主より文化財保護法第 93 条の届出が提出された。これを受けて、平成 26 年 7 月 11 日に確認調査を実施し、設定した 2 か所のトレンチから遺構・遺物が検出された。施主へ工法変更による遺構の保存について協議したが、工法変更是困難との結論に至り、遺跡を記録保存するための本調査を行うことが決定した。8 月 19 日、工事主体者と中津市長名にて発掘調査委託契約等を締結し、8 月 21 日から 9 月 18 日まで本調査を実施した。

調査の結果、遺構は上層・中層の2面に構築されており、両層合わせて土坑30基、溝状遺構4条などを確認した。平成27年度より報告書作成作業を開始した。作業は委託者の要望により工程を複数年度に分割して実施し、令和4年3月の本書刊行もって本事業を完了した。



第1図 調査区位置図

第2節 調査体制

平成 26 年度(2014) 年度

中津市教育委员会 教育長

教育实践

教育政策 文化財課長

文化財係長　主任研究員兼文化財係長

主任

魔劍 功

武昌方言

後藤 敦治

会津 晴照

高崎 章子

浦其 直幸 (整理相当)

平成 27 年度（2015）年度

中華人民共和國教育部  
中華人民共和國教委

廣雅 功

中津市教育委員会	教育次長	白木原 忠
"	文化財課長	平原 潤
"	主任研究員兼文化財係長	高崎 章子
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 28 (2016) 年度		
中津市教育委員会	教育長	廣畠 功
"	教育次長	白木原 忠
"	社会教育課長	高尾 良香
"	文化財室長	高崎 章子
"	主幹	花崎 徹
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 29 (2017) 年度		
中津市教育委員会	教育長	廣畠 功
"	教育次長	白木原 忠
"	社会教育課長	高尾 良香
"	文化財室長	高崎 章子
"	主幹	花崎 徹
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 30 (2018) 年度		
中津市教育委員会	教育長	廣畠 功
"	教育次長	栗田 英代
"	社会教育課長	高尾 良香
"	文化財室長	高崎 章子
"	主幹	花崎 徹
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
平成 31 (令和元、2019) 年度		
中津市教育委員会	教育長	栗田 英代
"	教育次長	大下 洋志
"	社会教育課長	高尾 良香
"	文化財室長兼歴史博物館長	高崎 章子
"	主幹兼歴史博物館副館長	花崎 徹
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
令和 2 (2020) 年度		
中津市教育委員会	教育長	栗田 英代
"	教育次長	大下 洋志
"	社会教育課長	岩丸 祐子
"	歴史博物館長	高崎 章子
"	副館長兼主幹	花崎 徹
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)
令和 3 (2021) 年度		
中津市教育委員会	教育長	栗田 英代
"	教育次長	黒水 俊弘
"	社会教育課長	岩丸 祐子
"	歴史博物館長	高崎 章子
"	副館長兼主幹	花崎 徹
"	副主任研究員	浦井 直幸 (整理担当)

発掘調査は下記の皆さんの協力による。(50 音順、敬称略)

太田博泰 奥中廣雪 小野行照 小野礼子 川口政代 金崎ミチ子 角美枝子 宮津しのぶ 若木和美  
山本高亮

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万4千人、面積491km<sup>2</sup>を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頬山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬渓として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。中津城下町遺跡は山国川の支流中津川河口に位置する。

### 第2節 歴史的環境

**旧石器時代** 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡(35)や法垣遺跡(19)で発見されている。

**縄文時代** 上畠成遺跡(47)で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡(18)で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡(21)、姫婦像の土偶が出土した高畠遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目されている。

**弥生時代** 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡(13)で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壙墓・住居跡・溝が福島遺跡(25)で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡(28)で検出された。

**古墳時代・古代** 亀山(亀塚)古墳(58)が挙げられ、近年の調査により埴輪片が出土している。その他の墳墓の多くは下毛原台地の南西に造営される。5世紀中頃には山国川に面する勘助野地遺跡(12)で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓(11)が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群(29)、城山古墳群(34)、城山横穴墓群(33)などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡(7)で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡(45)や定留遺跡(47)でまとまって発見されている。古代には7世紀末に白鳳系の相原庵寺(5)が建立される。また、遅くとも8世紀初頭には沖代平野に条里制(4)が施行されたと考えられ、条里的南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡(20)が確認された。須恵器や瓦を作製した生産遺跡は、草場窯跡(37)、躑ヶ迫窯跡(38)、洞ノ上窯跡などがある。集落遺跡としては10世紀代の縁軸陶器や墨書き土器が出土した三口遺跡がある。

**中世** 長久寺の田丸城跡(24)など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城(1)が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

**近世** 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632(寛永9)年に完成を見る(中津城下町遺跡2)。1717(享保2)年に奥平氏が入部し、1871(明治4)年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- |              |              |             |             |            |
|--------------|--------------|-------------|-------------|------------|
| 1. 中津城       | 13. 上ノ原平原遺跡  | 25. 福島遺跡    | 37. 草場窯跡    | 49. 諸田遺跡   |
| 2. 中津城下町遺跡   | 14. 大池南遺跡    | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ追窯跡   | 50. 定留貝塚   |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保烟遺跡  | 27. 前田遺跡    | 39. ホヤ池窯跡   | 51. 定留遺跡   |
| 4. 冲代地区条里跡   | 16. 佐知遺跡     | 28. 森山遺跡    | 40. 大谷窯跡    | 52. 天貝川遺跡  |
| 5. 相原磨寺      | 17. 樅遺跡      | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡    | 53. 和間貝塚   |
| 6. 三口遺跡      | 18. 黒水遺跡     | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 田尻大迫遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡    | 19. 法垣遺跡     | 31. 烟中遺跡    | 43. 中須遺跡    | 55. 是則遺跡   |
| 8. 鶴市神社裏山古墳  | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡    | 44. 若旗遺跡    | 56. 全徳遺跡   |
| 9. 手限横穴墓群    | 21. ボウガキ遺跡   | 33. 城山横穴墓群  | 45. 十前垣遺跡   | 57. ガラヌ遺跡  |
| 10. 弁旗邸古墳    | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群   | 46. 野田遺跡    | 58. 亀山古墳   |
| 11. 上ノ原横穴墓群  | 23. 原遺跡      | 35. 才木遺跡    | 47. 上畠成遺跡   | 59. 石堂池遺跡  |
| 12. 効助野地遺跡   | 24. 田丸城跡     | 36. 城山窯跡    | 48. 諸田南遺跡   | 60. 手川流域遺跡 |

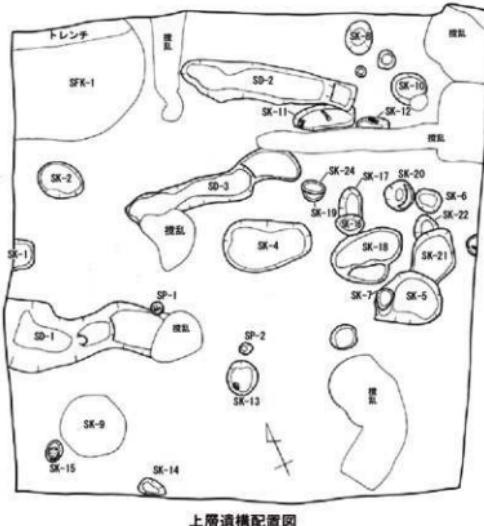
第2図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

#### 1. 調査の概要 (第3図)

本調査は建物建設範囲のうち 100m<sup>2</sup>を対象とし、重機により掘り下げを行つた。所々近代の擾乱が認められたものの、遺構密度は高い状況であった。遺構は 2 層（上層・中層）で検出され、各標高は概ね上層は約 3.8 ~ 3.9 m 前後、中層は 3.7 m 前後である。また、調査区南を排出土置き場にした関係上、中層の南側は調査できていない。遺物はパンケース 6 箱分が出土した。



上層遺構配置図

### 第2節 調査の成果

#### SK-1 (第4・7図)

上層の調査区北端で検出した。調査西壁沿いで検出した。一部調査区外へ延びる。最大長 60cm、最大幅 44cm、深さ 10cm を測る。遺物 1 は種別不明の陶器である。

#### SK-2 (第4・7図)

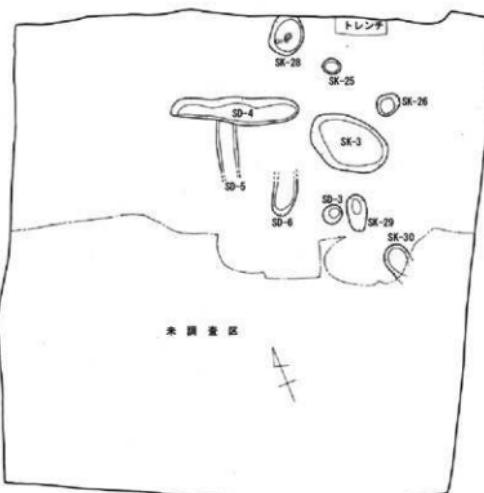
上層の調査区西よりで検出した。最大長 98cm、最大幅 74cm、深さ 30cm を測る。遺物 2 は種別不明の陶器である。

#### SK-3 (第4・7・8図)

中層の調査区やや北東よりで検出した。最大長 170cm、最大幅 116cm、深さ 76cm を測る。遺物は磁器皿、陶器碗・皿・片口・擂鉢、土師質土器小皿、骨(牛?)など(3~21)が出土している。4 は型打成形。18世紀後半の遺構と考えられる。

#### SK-4 (第4・8・9図)

上層の調査区中央付近で検出した。最大長 180cm、最大幅 102cm、深さ 20cm を測る。遺物は磁器盤・皿・小環・碗・蓋、陶器壺・碗・瓦、土師質土器皿、土鉢など(22~36)が出土している。22 は葉脈を線刻



中層遺構配置図

第3図 遺構配置図 (S=1/100)

する。34は先端に菱形と円形の透かしがある。

#### SK-5 (第5・9図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長136cm、最大幅108cm、深さ60cmを測る。遺構内より木片や人頭大の礫、磁器合子、陶器碗、擂鉢、土師質土器小皿・焙烙、砥石など(37~44)が出土している。41は灯明皿であろう。

#### SK-6 (第4・9図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長54cm、最大幅46cm、深さ26cmを測る。磁器碗、陶器碗、土師質土器鍋など(45~49)が出土した。

#### SK-7 (第4・9図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長44cm、最大幅36cm、深さ15cmを測る。50は土師質土器鍋である。

#### SK-8 (第4・9図)

上層の調査区北よりで検出した。最大長68cm、最大幅56cm、深さ16cmを測る。51は土師質土器皿、52は蛸壺である。

#### SK-9 (第4・10図)

上層の調査区南西で検出した。最大長134cm、最大幅128cm、深さ50cmを測る。丸い平面形と壁面の縁の出土状況から井戸跡の可能性がある。磁器小壺・碗・湯呑・陶器片口・土師質土器杯・こね鉢・火打石など(53~60)が出土した。

#### SK-11 (第4・10図)

上層の調査区中央北よりで検出した。最大長128cm、最大幅52cm、深さ16cmを測る。62は上野・高取系の水差・陶器・瓦質土器・骨など(61~64)が出土した。

#### SK-12 (第4・10図)

上層の調査区北東よりで検出した。最大長66cm、最大幅28、深さ18cmを測る。動物の骨など(65~66)が出土した。

#### SK-13 (第5・10図)

上層の調査区南よりで検出した。最大長72cm、最大幅62cm、深さ19cmを測る。陶器擂鉢、土師質土器など(67~69)が出土した。

#### SK-14 (第5・11図)

上層の調査区南端で検出した。最大長56cm、最大幅30cm、深さ18cmを測る。磁器瓶、陶器皿など(70~72)が出土した。

#### SK-15 (第5・11図)

上層の調査区南西端で検出した。最大長46cm、最大幅34cm、深さ5cmを測る。底面より川原石が据え置かれるように出土した。73は碁石である。

#### SK-16 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長60cm、最大幅44cm、深さ16cm。74は陶器碗。

#### SK-17 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長54cm、最大幅48cm、深さ17cmを測る。陶器鉢、鉄製品など(75~76)が出土した。

### SK-18 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長152cm、最大幅108cm、深さ18cmを測る。77は陶器碗である。

### SK-20 (第5・11図)

上層の調査区中央東よりで検出した。最大長64cm、最大幅60cm、深さ72cmを測る。磁器、陶器碗、土師質土器皿、砥石など(78~83)が出土している。

### SK-21 (第5・11図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長102cm、最大幅90cm、深さ46cmを測る。磁器皿、陶器甕・瓶、土師質土器皿など(84~89)が出土した。

### SK-22 (第5・11図)

上層の調査区東よりで検出した。最大長52cm、最大幅26cm、深さ34cmを測る。陶器、瓦質土器火鉢、動物の骨など(90~92)が出土した。

### SK-24 (第5・11図)

調査区中央で検出した。最大長50cm、最大幅28cm、深さ9cmを測る。93は陶器の水差である。

### SK-25 (第5・11図)

中層北よりで検出した。最大長38cm、最大幅32cm、深さ10cmを測る。94は陶器の片口か。

### SK-26 (第5・12図)

中層の調査区北東よりで検出した。最大長52cm、最大幅44cm、深さ40cmを測る。95は陶器皿、96は須恵質土器である。

### SK-28 (第5・12図)

中層の調査区北端で検出した。最大長82cm、最大幅68cm、深さ27cmを測る。土師質土器皿、銅製品の鉤など(97~101)が出土した。

### SK-29 (第5・12図)

中層の調査区中央東よりで検出した。最大長76cm、最大幅42cm、深さ62cmを測る。磁器、土師質土器皿、青銅製品など(102~104)が出土した。

### SK-30 (第5・12図)

中層の調査区中央東よりで検出した。最大長60cm、最大幅52cm、深さ15cmを測る。105は瓦質土器鉢。106は動物の骨である。

### SFK-1 (第5・12図)

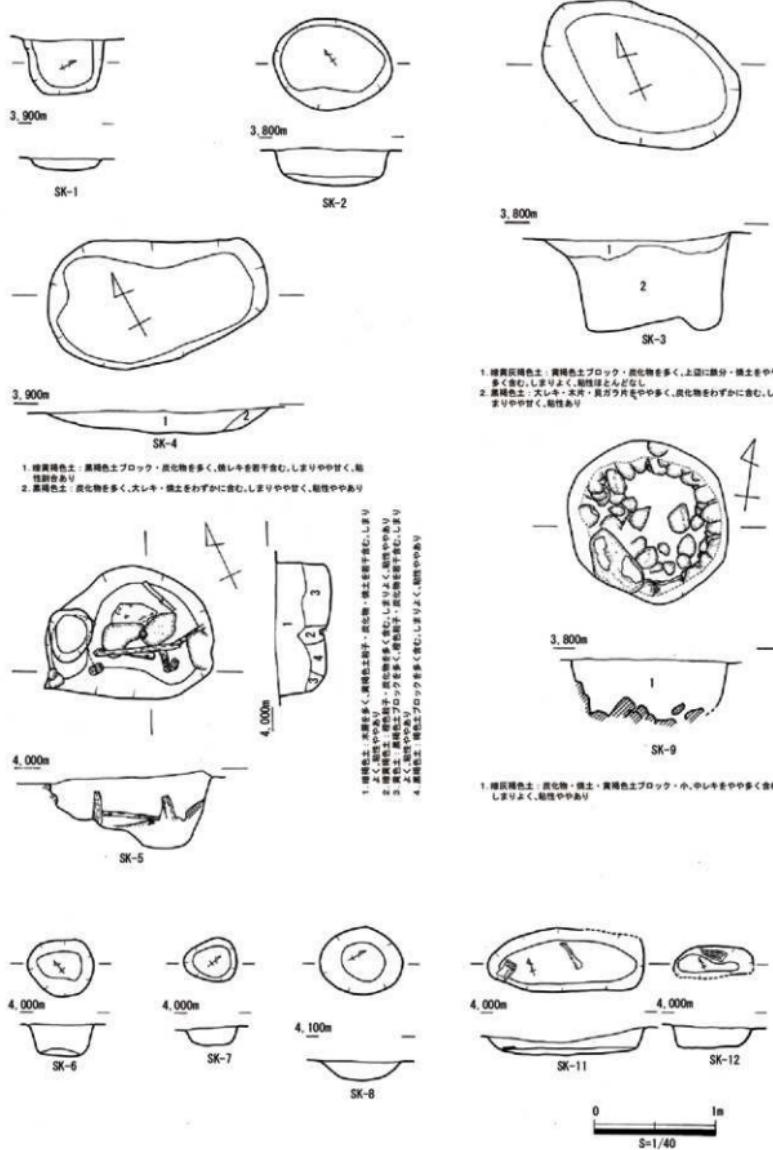
上層の調査区西端で検出した。最大長280cm+ $\alpha$ 、最大幅240cm+ $\alpha$ 、深さ84cmを測る。炭・焼土が多い数出土しており、火災処理土坑と考えられる。107は磁器碗、108は陶器皿である。

### SD-1 (第5・12図)

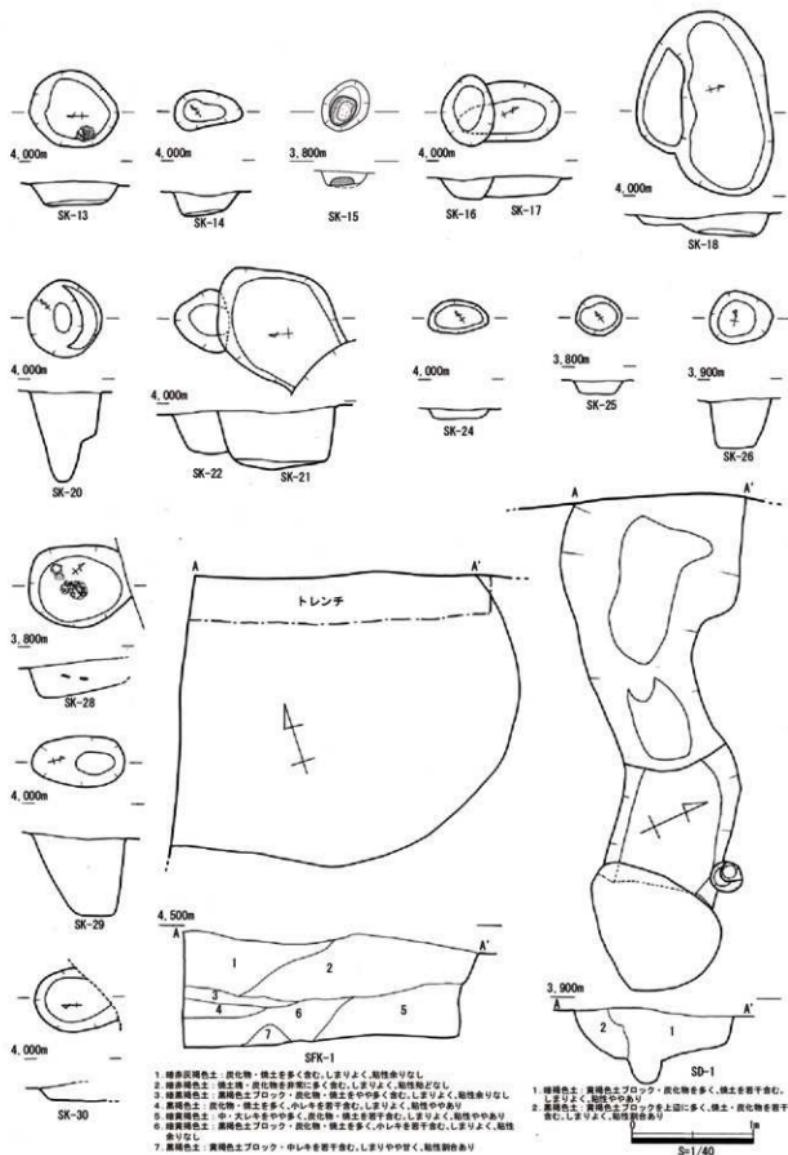
上層の調査区西端で検出した。最大長404cm、最大幅84cm、深さ62cmを測る。陶器擂鉢、土師質土器杯など(109~111)が出土した。

### SD-2 (第6・12・13図)

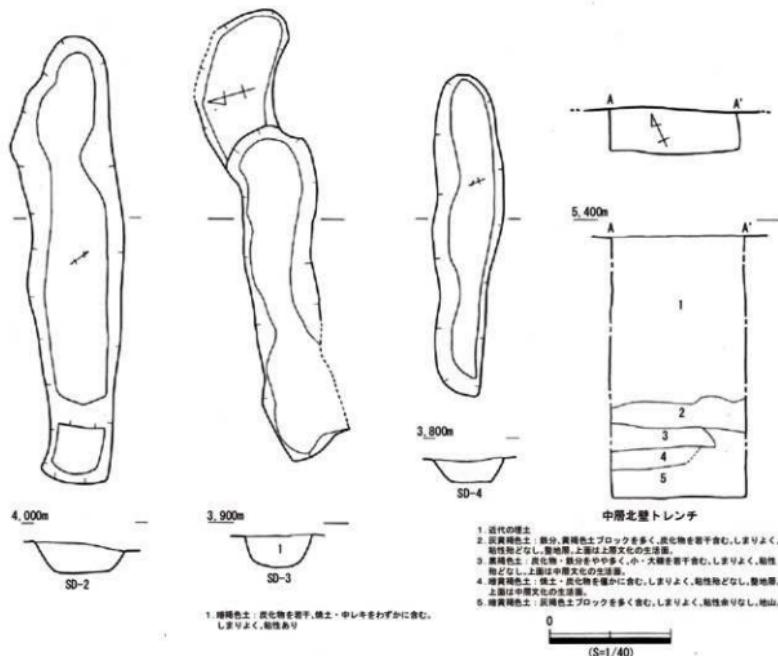
上層の調査区北よりで検出した。最大長366cm、最大幅76cm、深さ26cmを測る。磁器小壺・碗・鬱付油壺、陶器皿、徳利・擂鉢・皿・メンコ状遺物、土師質土器、瓦質土器、型打土製品、銅製品など(112~127)が出土した。



第4図 SK-1・2・6・7・8・11・12 平・断面図、SK-3・4・5・9平・断面土層図



第5図 SK-13~18・20~22・24~26・28~30平・断面図、SFK-1・SD-1平・断面土層図



第6図 SD-2~4 平・断面図、トレンチ平・断面土層図

#### SD-3 (第6・13図)

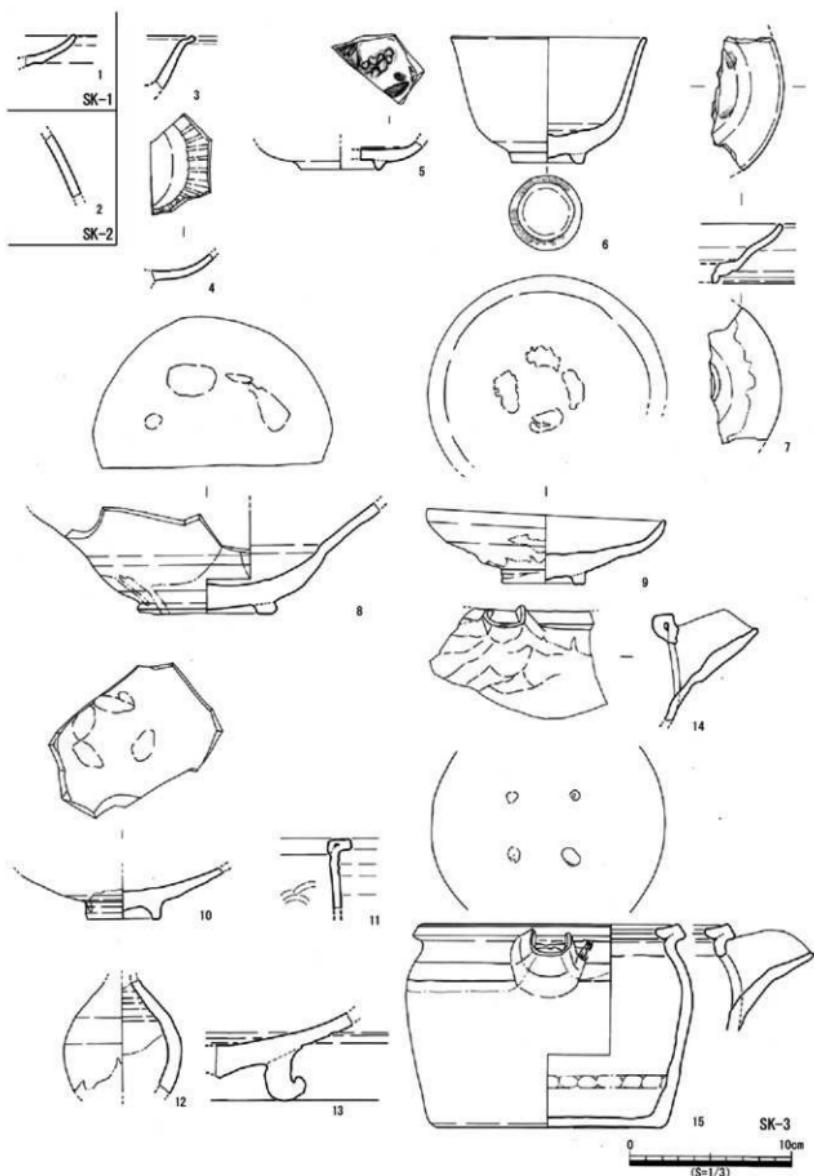
上層の調査区中央で検出した。最大長366cm、最大幅56cm、深さ26cmを測る。陶器皿、製塩土器、瓦質土器壺、甕、須恵質土器、煙管など(128~134)が出土した。

#### SD-4 (第6・13図)

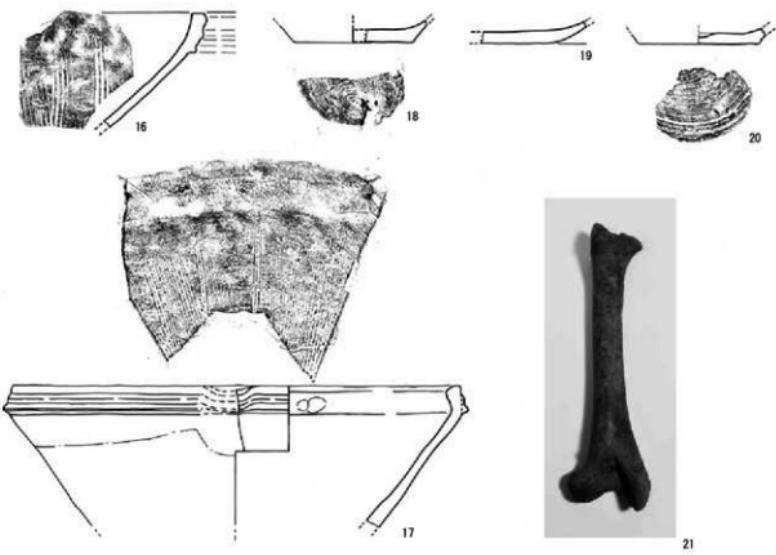
下層の調査区中央北よりで検出した。最大長262cm、最大幅48cm、深さ20cmを測る。陶器碗、土師質土器皿、鉄製品など(135~139)が出土した。

#### 調査区北端2層・遺構検出時・トレンチ・撲乱出土遺物 (第14~17図)

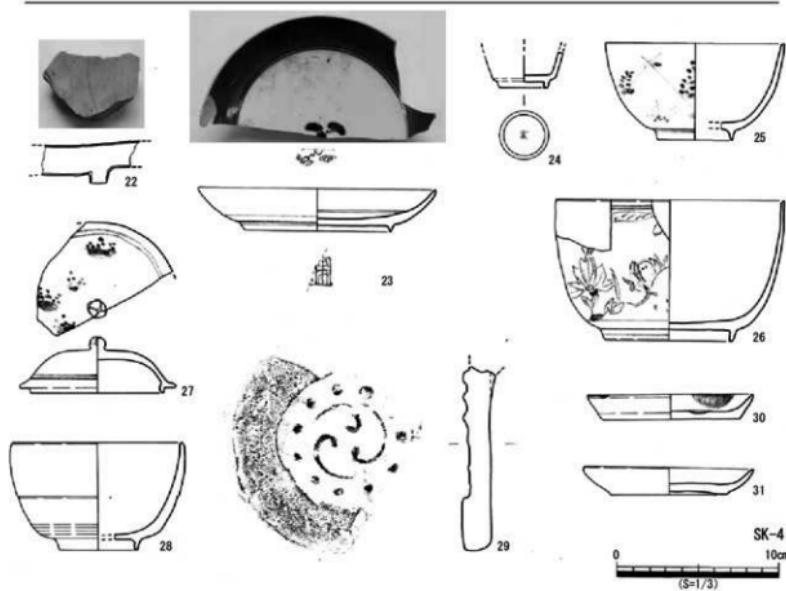
調査区北端2層より磁器碗・皿・聞香炉、陶器甕・壺・皿・鉢・香炉・水差、土師質土器皿・熔炉、焼塙壺、銅錢など(140~159)が出土した。検出時は磁器小皿・小杯・碗・瓶、陶器皿・碗・鉢・火入れ・擂鉢・蓋・壺、土師質土器皿・熔炉、須恵器など(160~181)が出土した。1・2トレンチからは磁器碗・皿、土師質土器皿・陶器皿・瓦質土器(182~195)が出土した。撲乱からは磁器皿・碗・小杯・陶器碗・火入れ・皿・土師質土器熔炉・焼塙壺・瓦など(196~211)が出土した。



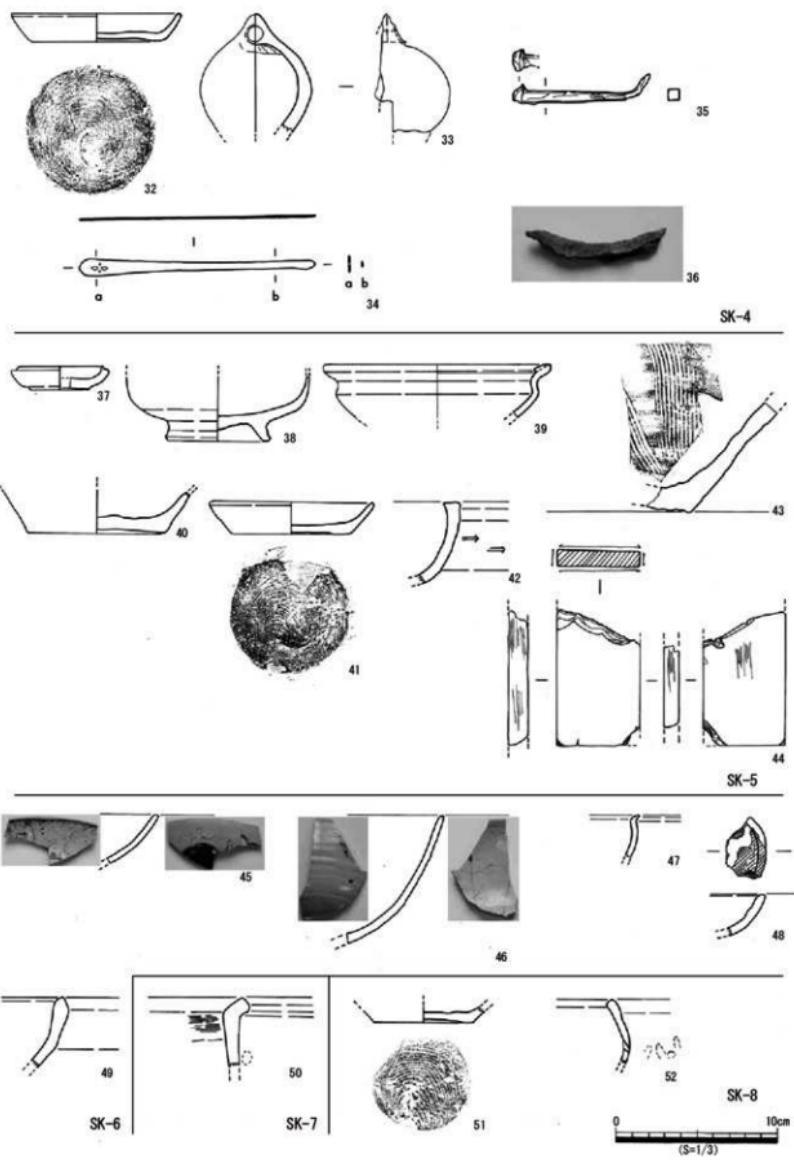
第7図 SK-1~3 出土遺物



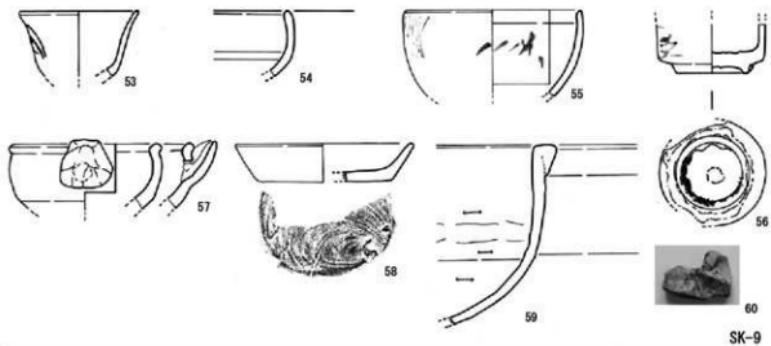
SK3



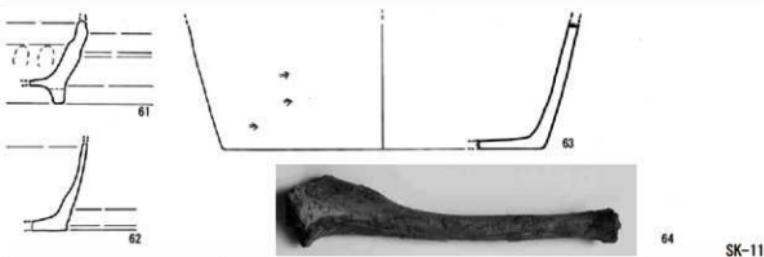
第8図 SK-3・4 出土遺物



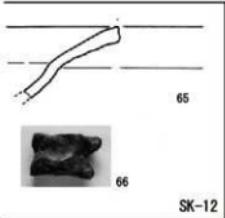
第9図 SK-4~6・8 出土遺物



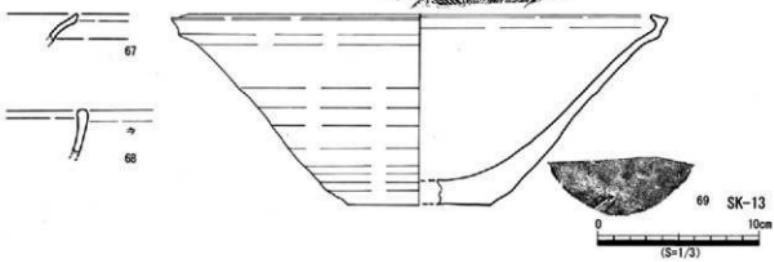
SK-9



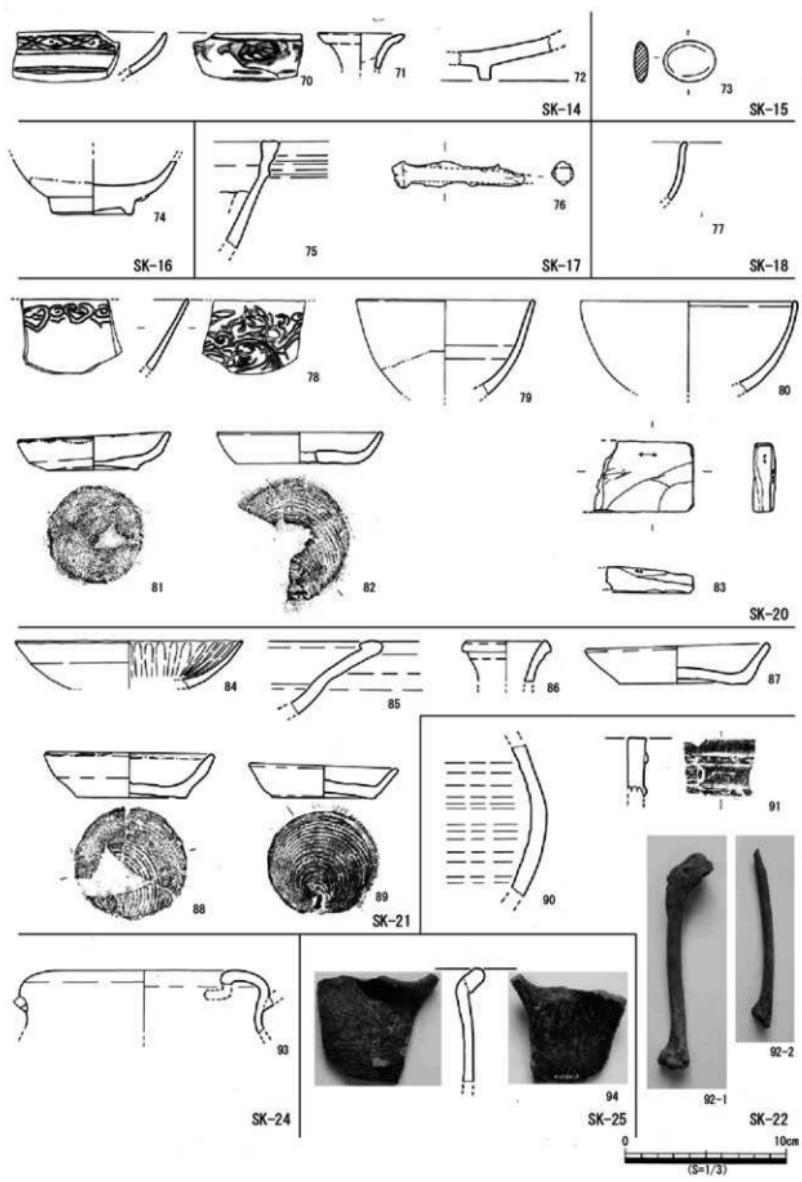
SK-11



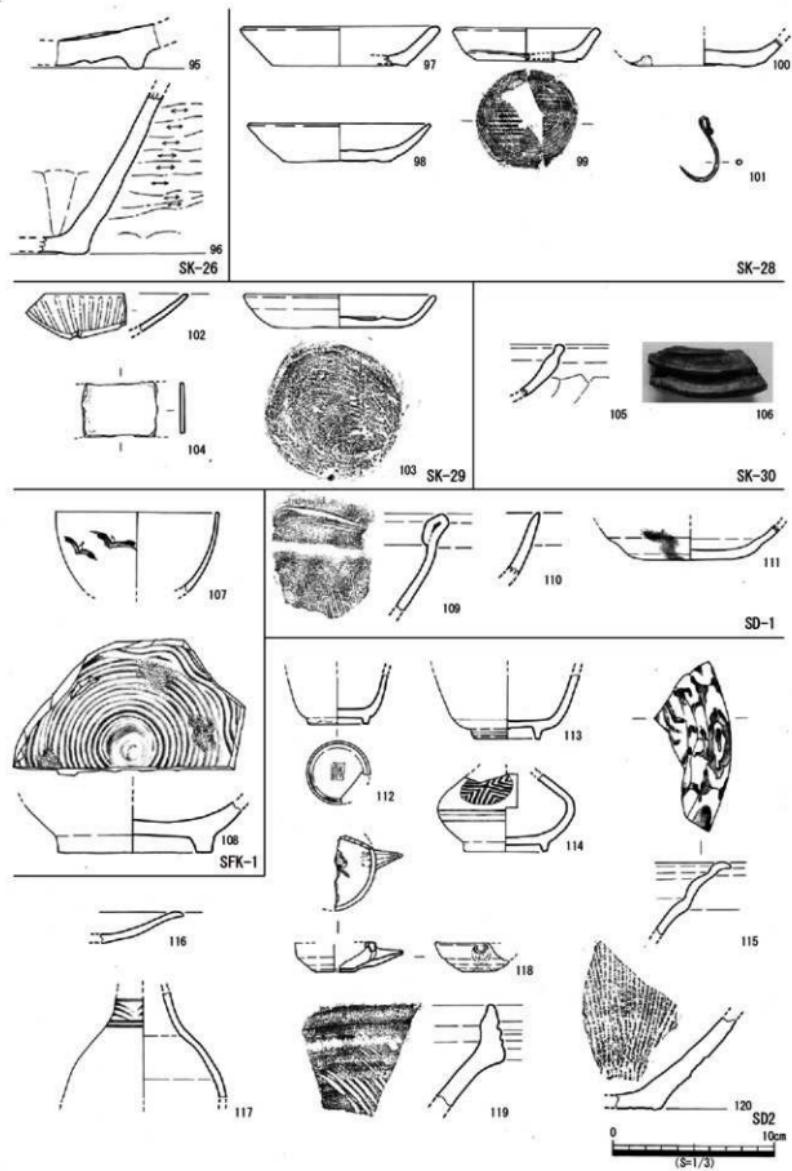
SK-12



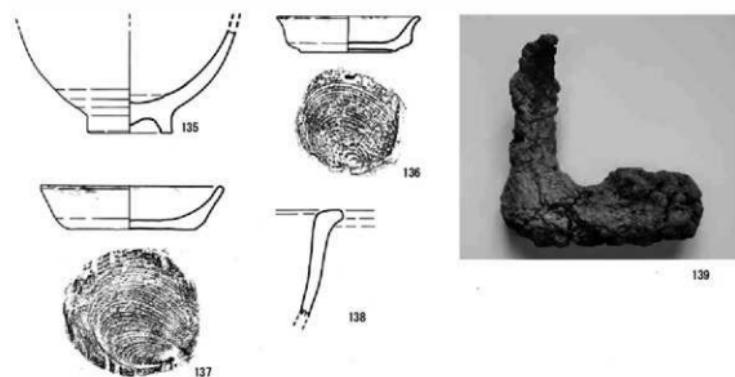
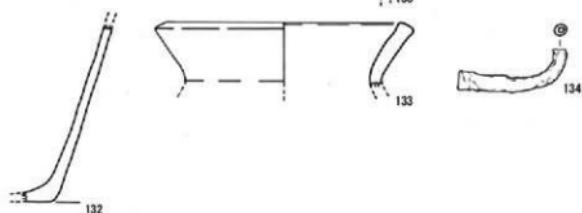
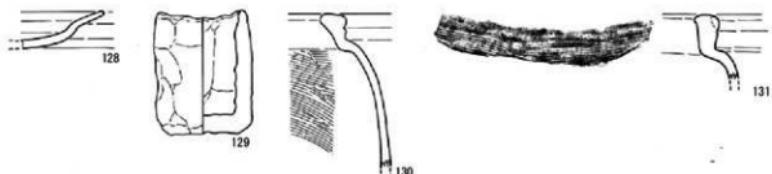
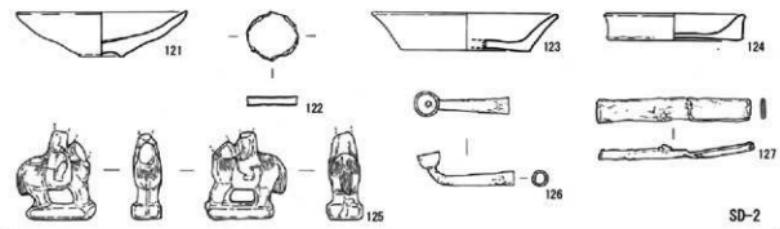
第10図 SK-9・11~13 出土遺物



第11図 SK-14~18・20~22・24・25 出土遺物

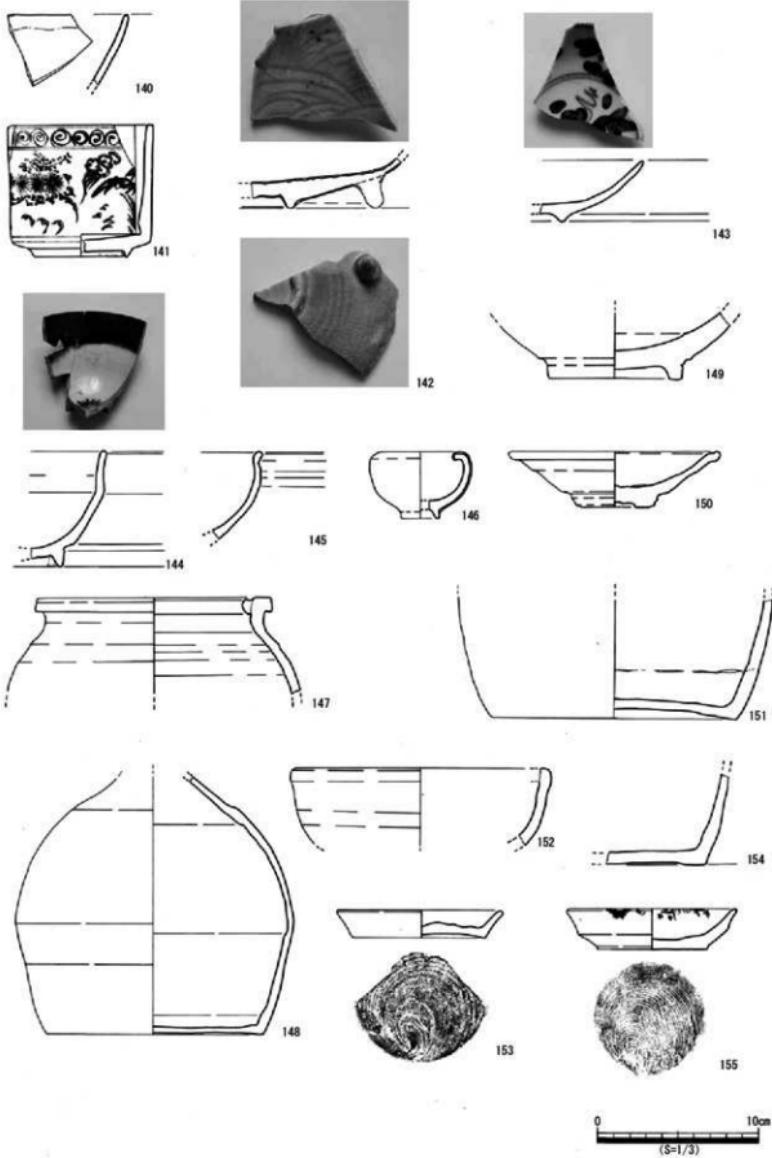


第12図 SK-26・28~30・SFK-1・SD-1・2 出土遺物

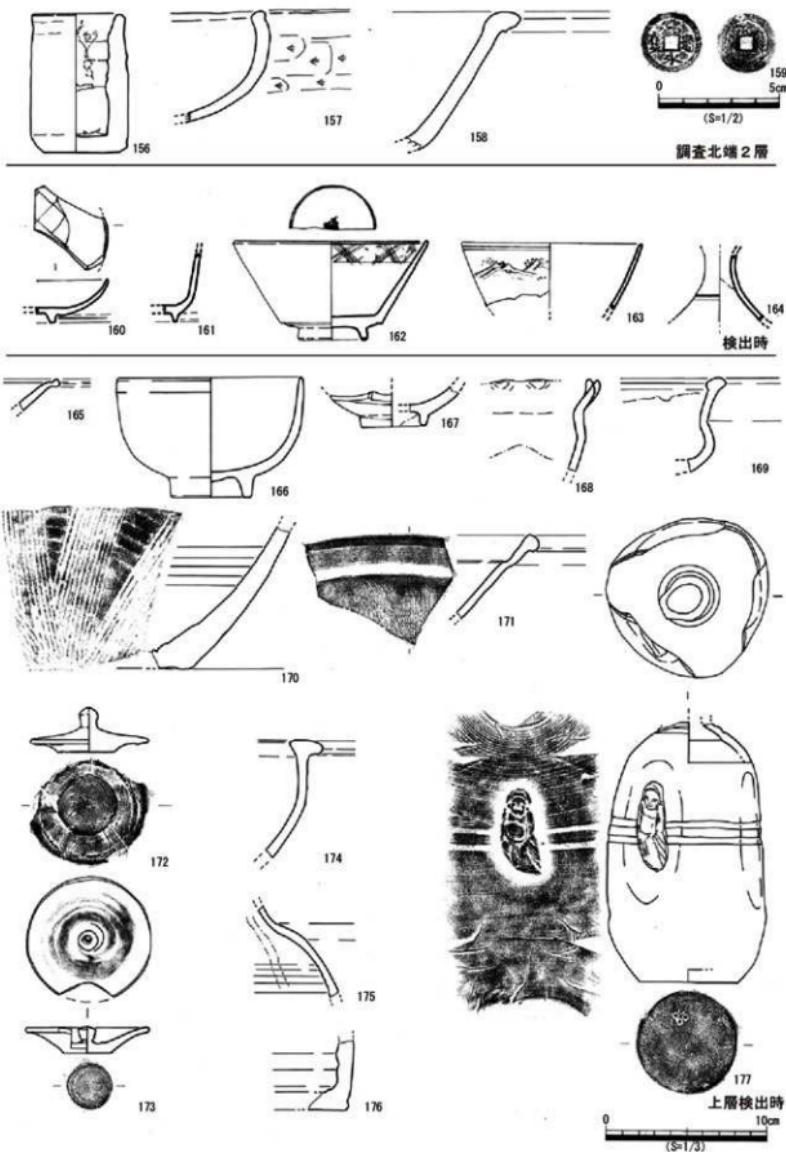


0 10cm  
(S=1/3)

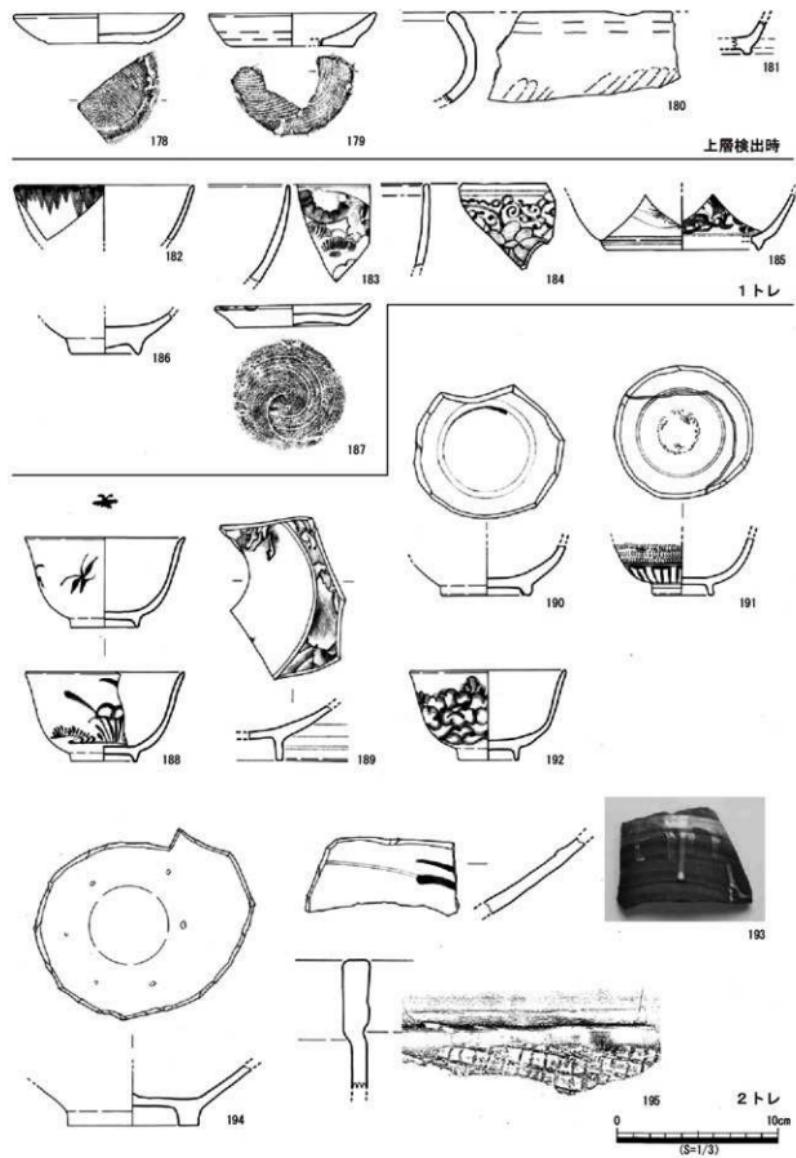
第13図 SD-2~4 出土遺物



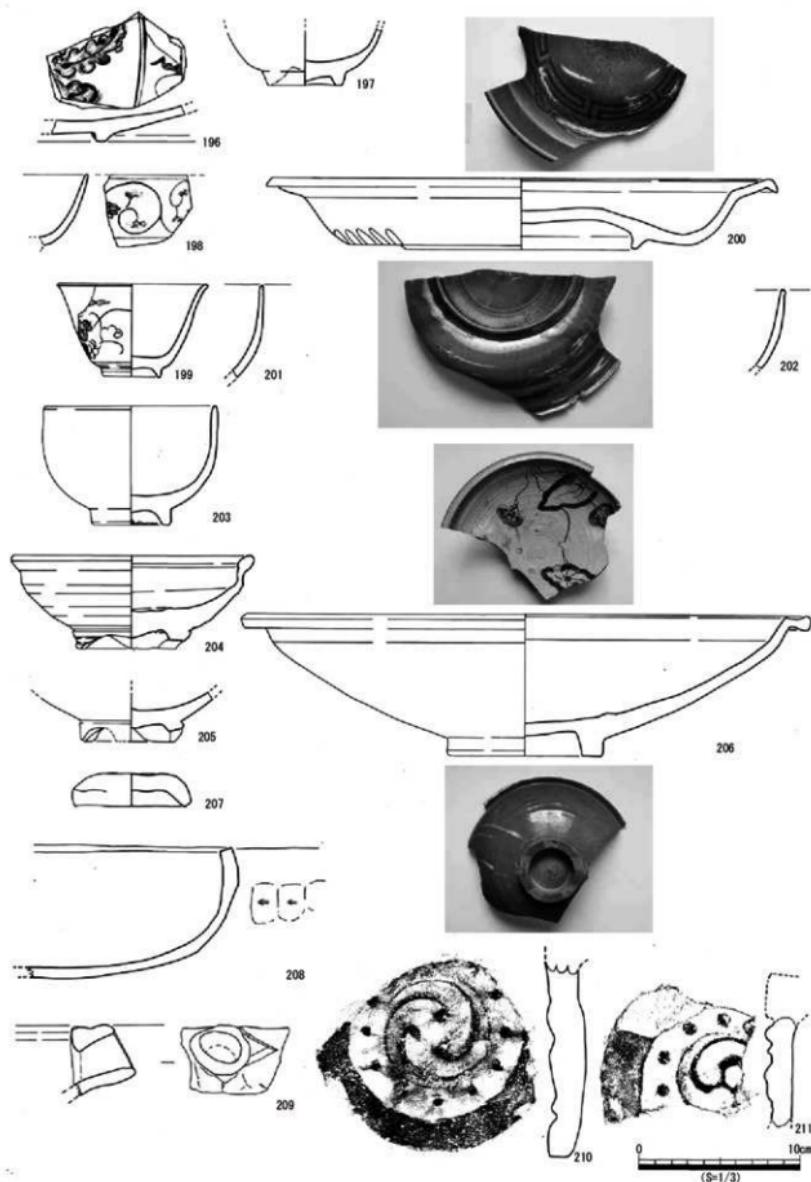
第14図 調査区北端2層 出土遺物



第15図 調査区北端2層・検出時・上層検出時出土遺物



第16図 上層検出時 1トレ・2トレ 出土遺物



第17図 掘乱出土遺物

## 第4章 総 括

調査区からは江戸時代後期を中心とした遺構・遺物が確認された。以下、それらについて概観する。

### 【遺物】

**17世紀代**: 当該期の遺物は肥前（唐津）系溝縁皿（150）、上野・高取系の水差（62・154）などが出土している。出土遺物全体からみて少量に留まっている。これらの遺物は調査区南の殿町地区（中津市2004）など城下町の発掘調査においても量は多くないものの出土しており、このころから北九州・西北九州より物資の搬入があつたことを知る。

**18世紀前半**: 当該期から遺物の数量は増加する。雨降り文を施す磁器碗（182）など肥前系の磁器類が出土している。また、今回の調査では土師質の灯明皿が13点出土しているが、これらの口径の平均は10.2cmである。この数値は中津城下町遺跡では18世紀前半代の皿の法量にあたる。

**18世紀後半**: 当該期は肥前系磁器類の出土が多い。磁器碗（25・26・183・184）などが多数を占める。

**19世紀代**: 筒型碗（141）などが当該期の遺物と考えられるが、全体量は少ない印象を受ける。

### 【遺構】

遺物が出土し番号を付した遺構は、土坑30基、火災処理土坑1基、長細い溝状の遺構（土坑といつてもよいかもしれない）の4基である。各遺構は出土遺物の多寡によりそのすべての時期を明確にできていない。時期を推定し得たのは、17世紀代はSK-3、SK-11、18世紀代後半はSK-4、SD-2の4基である。

検出した多くの土坑（溝状の遺構含む）は廃棄土坑と考えられる。今回の調査区の西側は京町筋の南北方向の幹線道が走るが、道から約10m東に調査区がある。幕末の絵図では調査区一帯は町屋とされ、おそらく道に面した位置には建物が建ち、その後方（東側）は建物の裏手にあたり、庭などの生活空間が存在したと思われる。確認された廃棄土坑はその空間に構築され、井戸の可能性のあるSK-9もその生活空間を構成していたもの可能性がある。一方、礎盤状の川原石を底面においたSK-15は建物の柱を支えていたと思われ、道沿いの建物に伴う遺構の可能性がある。

また、中層北に設定したトレチから中層下20cm下位に古い文化層が確認されており、調査区には合計3時期の生活面が存在したと思われる。

今回の調査は約100mという狭い調査区であったが、多くの貴重な情報を得ることができた。今回の調査が今後の中津城下町遺跡の実態解明に資することを期待したい。

以上、中津城下町遺跡27次調査の発掘調査成果とその意義を述べ、総括とする。

### （参考文献）

中津市教育委員会「中津城下町遺跡殿町地区」中津市文化財調査報告第32集 2004

第1表 出土遺物観察表

出土品番号	遺物番号	器種・種別	法量 (cm)		成形	絵付跡面	文様 (調整)	色調	胎土	備考
			口径	底径						
1	SK-1	陶器・土器	(1.8)		ロクロ	透明釉		白色		個人あり
2	SK-2	陶器・土器	(3.8)		ロクロ	鉢輪		透明釉		
3	SK-3	磁器・皿	(2.2)		ロクロ	透明釉				
4	SK-4	磁器・皿	(1.4)		堅打ち	透明釉			青白釉	
5	SK-5	磁器・皿	(1.2)	(5.0)	ロクロ	透明釉			反転復元	復元復元
6	SK-6	陶器・碗	(12.0)	1.7	4.4	ロクロ	透明釉	灰黄		高台装飾、印伝模
7	SK-7	陶器・碗?	(3.6)		ロクロ					反転復元
8	SK-8	陶器・皿	(8.4)	(8.4)	ロクロ	鉢輪・脚輪・土足輪		に伝り褐色		黒毫(辯才)胎土
9	SK-9	陶器・皿	14.6	4.2	5.1	ロクロ	反輪		灰褐色	
10	SK-10	陶器・皿	(2.7)	4.5	ロクロ	脚輪	胎土目垂丁寧なナダ	灰白色		黄人目 内・加土目垂4ヶ所
11	SK-11	陶器・皿?	(4.3)		ロクロ	内・露地、同心円9.4mm 外・鉄輪			白色粒子 0.5mm大少量	口縁部は内側に折り上げ
12	SK-12	陶器・小瓶?	最大直 (7.2)	(8.8)	ロクロ	外・鋸歯の上に反輪		褐色		個人入り 反転復元
13	SK-13	陶器・不明(脚輪 の基?)	(4.6)		ロクロ	透明釉		灰		個人入り 反転復元
14	SK-14	陶器・口	(0.3)		ロクロ	反輪		褐色		
15	SK-15	陶器・口	(15.6)	12.5	13.8	ロクロ	鉢輪	灰黄		土野・萬葉集?
16	SK-16	陶器・杯	(8.9)		ロクロ					胎土目垂4ヶ所 口縁下にM字凸帯 内・胎土目垂4ヶ所
17	SK-17	陶器・盤	(27.6)	(8.6)	ロクロ	外・上部に鉄輪	内・口縁部附近に頭目の 頭部	赤褐色		白色粒子 0.5mm大少量 頭前
18	SK-18	土師質土器・皿	(1.1)	(7.3)			内・に伝り褐色 外・施釉			反転復元
19	SK-19	土師質土器・皿	(1.0)				内・に伝り褐色			反転復元
20	SK-20	土師質土器・皿	(0.8)	(7.2)			内・内・に伝 い褐色			反転復元
21	SK-21	骨	最大直 23.6	幅 6.5					白色粒子 0.5mm大少量 見込:へこみあり	牛・大脳か?
22	SK-22	磁器・青磁	(2.6)							
23	SK-23	磁器・皿	(14.6)	2.8	9	透明釉	内・外 内・外 外・一葉巻紋、二重團紋 裏面、文字あり			
24	SK-24	白磁・小杯	(2.1)	2.9	ロクロ	透明釉				反転復元 高台に張りあり
25	SK-25	磁器・碗	(10.9)	8.9	(4.6)	透明釉	日本文?			
26	SK-26	磁器・碗	(14.0)	8.6	(7.2)	透明釉	日本文			反転復元
27	SK-27	磁器・皿	(0.6)	3.4	(8.2)	透明釉	日本文			
28	SK-28	磁器・碗	(10.4)	6.6	(4.8)	透明釉	に伝り裡			反転復元
29	SK-29	糸貝皿	瓦形側 (11.2)	3.0	1.9	曲線彫	側縁彫 側縁彫			左三ツ巴
30	SK-30	土師質土器・皿	(10.1)	1.5	8.4		(外・内)に伝 い褐色			多色粒子 0.5mm大少量 色斑点・底面 各0.5mm大少量
31	SK-31	土師質土器・皿	10.3	1.7	6.5		に伝り裏面			赤色粒子・角閃石 各0.5mm大少量
32	SK-32	土師質土器・皿	10.4	1.7	7.8					赤色粒子・底面 各0.5mm大少量 赤色粒子・白色粒子・角閃石 各0.5mm大少量
33	SK-33	土師質土器・土瓶	(3.2)		手びねり		に伝り裡			反転復元 赤色粒子
34	SK-34	御製品・旨?	最大直 14.2	幅 1.0	深さ 1.0					
35	SK-35	御製品・灯	最大直 8.4	幅 1.2	深さ 0.7					
36	SK-36	食	最大直 1.0		幅 1.0					
37	SK-37	磁器・子	(0.6)	1.4	(3.6)	ロクロ	透明釉・白磁			反転復元 2+2脚足
38	SK-38	陶器・碗	(0.9)	3.2	ロクロ	鉢輪	反・黃褐色			
39	SK-39	陶器・碗	(14.0)	(3.3)	ロクロ	鉢輪	褐色			反転復元 2+2脚足
40	SK-40	土師質土器・皿	(2.7)	(8.4)	ロクロ		外・内・白磁 色			赤色粒子・白色粒子 0.5mm大少量 底面
41	SK-41	土師質土器・皿	10.2	1.9	7.2	ロクロ		外・内・に伝 い褐色		外・内・スズ付青 底面・赤色足
42	SK-42	土師質土器・培塿	(4.9)				ヘラケズリ			赤色粒子・白色粒子 0.5mm大少量 底面
43	SK-43	陶器・盤	(8.7)		ロクロ	鉢輪		に伝り褐色		赤色粒子・白色粒子 0.5mm大少量 底面
44	SK-44	石器・硯石	長さ (8.2)	幅 3.1	厚さ 1.1			反白色		墨284g
45	SK-45	磁器・皿	(2.0)			ロクロ	透明釉・色斑点・底面 白・うすむらさき・底面			
46	SK-46	磁器・茶竹筒	(0.6)			ロクロ	透明釉	内・横縞が二本		内・個人あり 良法の色斑 青斑色
47	SK-47	陶器・碗	(2.6)			ロクロ	透明釉	反白色		
48	SK-48	牛骨・ソリペ	(3.0)			ロクロ	透明釉			
49	SK-49	土師質土器・鍋	(4.5)			ロクロ	平行タタキ			
50	SK-50	土師質土器・鍋	(3.7)			ロクロ		反白色		
51	SK-51	土師質土器・皿	(1.0)	6		ロクロ				
52	SK-52	土師質土器・焼物	(4.1)			ロクロ	指揮在器外層にココ 絵付跡面	に伝り褐色 色		
53	SK-53	磁器・青磁小杯	(7.0)	(4.0)		ロクロ	巣穴・唐草紋	真木文?		反転復元
54	SK-54	磁器・青磁碗	(4.0)			ロクロ	内・二重團紋			
55	SK-55	磁器・青磁(蓋付)	(11.0)	(3.3)		ロクロ	透明釉	青木文?		
56	SK-56	磁器・青磁	(3.0)	(4.4)		ロクロ	巣穴・透明釉			反転復元
57	SK-57	陶器・茶竹筒	(0.6)	(0.6)		ロクロ		褐色		反転復元
58	SK-58	土師質土器・杯	(11.0)	2.3			白・内・青白釉			赤色粒子0.1~0.2mm中量 白0.1mm少量

第2表 出土遺物観察表

遺物番号	遺物名	種類・形別	法面(cm)		成形	絵付跡面	文様(調整)	色調	胎土	備考
			口端	底端						
59 SK-9	土師質土器・こね 鉢		(11.0)				・(内)カラヅリ ・(内)ナメのら一部北が手	赤色粒子 白色粒子 白色粒子	0.1~0.3mm中量 0.1~0.3mm中量 0.1~0.3mm中量	
60 SK-9	石器・火打石	最大幅 (4.2)	最大幅 (3.4)	最大幅 (1.6)						重222g
61 SK-11	陶器・平底		(5.1)		ロクロ	変形脚?		灰褐色		
62 SK-11	陶器・水差		(5.4)		ロクロ	変形脚		灰褐色		
63 SK-11	瓦質土器・不明		(7.6)		ロクロ		・ヘラケズリ ・ナメ	白色 白色	0.1~0.3mm中量 0.1~0.3mm中量 0.1~0.3mm中量 0.1~0.3mm中量	
64 SK-11	骨	最大幅 (26.0)	最大幅 (6.1)							
65 SK-12	陶器・直		(4.4)		ロクロ	変形脚、一部水色の 脚? ・白化粒子の上に経路 がかかる		灰黃褐色		製作地: 奥津 見出あり
66 SK-12	骨	最大長 (2.4)	最大幅 (2.7)							
67 SK-13	陶器・直?		(3.7)		ロクロ			灰褐色		
68 SK-13	土師質土器・漆抜 直		(2.6)		ロクロ		・(内)ナメ ・(内)ケズリ	内に5~6横 白色粒子 白色粒子	1~8mm多量 1~4mm多量	外: スス付裏
69 SK-13	陶器・壺	11.7	(28.3)	(8.7)	ロクロ	口縁部に経路		漆抜		伝統形式 漆抜(漆絞り12本)
70 SK-14	磁器・瓶		(2.6)		ロクロ	染付・洒青釉	内: 四方型・側縫 見返: 染付?・二重圓錐 外: 玄(けん)?・漆絞	濃褐色の色調 濃褐色・薄色		
71 SK-14	磁器・瓶	(2.3)	(3.2)		ロクロ	白磁				伝統形式
72 SK-14	陶器・直		(2.7)		ロクロ	外: 内・灰釉?		褐~灰白		絞込: 亂毛の印痕跡 盒身は高台扇形・無箱! 一般、焼かれていて る所(?)
73 SK-15	碁石	横 2.5	横 2.5	厚さ 0.8				黒		重さ1kg
74 SK-16	陶器・直		(3.4)	5	ロクロ	・(内)釉あり(たれか がりの厚みあり)		黄灰		
75 SK-17	陶器・林		(8.6)		ロクロ			褐色		重さ14kg 全体にサビが残る
76 SK-17	鉄製品・釘	長さ 6.2	幅 1.1	厚さ 0.8						
77 SK-18	陶器・壺		(3.6)			漆絞		灰白		
78 SK-19	磁器・倒?		(4.3)		ロクロ	香爐	内 口縁部付近に漆絞 外: 空隙	褐		
79 SK-20	陶器・壺		(11.0)	(3.7)	ロクロ	漆絞		墨		伝統形式 内: 細い当身のあとのような凹点あり
80 SK-20	陶器・壺		(11.0)	(3.6)	ロクロ	透析窓		褐色灰		伝統形式 (内)口縁: 入出あり
81 SK-20	土師質土器・直	9.4	2	3.6	ロクロ	染付窓		褐	白色粒子 2mm多量	伝統: 中央に直窓の後成後押孔あり 口縁: スス付裏
82 SK-20	土師質土器・直	10.2	1.9	7.4	ロクロ	染付		灰白	石英 磷灰石微量 角閃石 0.5mm多量	伝統: 中央に直窓の後成後押孔あり 口縁: 入出あり
83 SK-20	石製品・砾石	長さ (6.1)	幅 (4.2)	厚さ (1.4)				灰白色~浅 墨褐色		重さ5kg
84 SK-21	磁器・直	(14.0)	(3.0)		型打ち	透析窓	内: 縫通井	褐色		伝統形式 ノギ(ふる)らぬあり 内: 積入あり
85 SK-21	陶器・直		(4.8)	(2.5)		直角長脚(灰色)の上 から伸びる垂墨		灰白色		直角入り
87 SK-21	土師質土器・直	11	2.4	7.8			(内)内: 褐色 (内)外: 褐色	赤色粒子・角閃石 0.5~0.7mm多量		
88 SK-21	土師質土器・直	10	2.8	6.7			(内)内: ふくらむ 内: 黄褐色~ 褐色	赤色粒子・角閃石 0.5~1mm多量		口縁部スス付裏
89 SK-21	土師質土器・直	8.8	2.1	6.3			(内)内: ふく 内: 黄褐色~ 褐色	白色粒子・角石 0.5~1mm多量		直通部切り目あり
90 SK-22	陶器・壺?		(18.2)			焼物?				
91 SK-22	瓦質土器・火鉢		(3.5)				(内)内: 留石 外: 角閃石 色 色	石英 角閃石 0.5mm多量		
92-1 SK-22	骨	最大幅 (1.6)	最大幅 (1.6)	最大幅 (1.6)						鳥類の上歯骨か?
92-2 SK-22	骨	最大幅 (1.6)								鳥類の尺骨か?
93 SK-24	陶器・水差		(10.0)	(3.8)		焼物?		灰黄色		伝統形式
94 SK-25	陶器・片口?		(7.0)			焼物?		灰褐色		
95 SK-26	陶器・直		(2.75)				内: 白背景 焼物?・直合割分・高 土色の化粧土?	灰色	鳥合直、一片割引下げている	
96 SK-26	須恵質土器・直?		(9.5)				(内)内: 褐色 (内)外: 褐色	長石 石英 0.5~1mm多量		
97 SK-28	土師質土器・直	(12.2)	2.4	(8.2)			(内)内: ふく 内: 黄褐色~ 褐色	石英 0.5mm以下多量		内縫付窓: ケズリのよう跡 内縫付窓: 一筋凹出
98 SK-28	土師質土器・直	11	2.45	8.6			(内)内: ふく 内: 黄褐色~ 褐色	褐色粒子		伝統形式
99 SK-28	土師質土器・直	8.5	2	6.1			(内)内: ふく 内: 黄褐色~ 褐色	褐色粒子		直通部にススが付着
100 SK-28	土師質土器・直		(14.0)	(7.1)			(内)内: ふく 内: 黄褐色~ 褐色	褐色粒子		直通部: あらりと板状痕あり
101 SK-28	新製品?・直合窓 の直	長さ 4.0	幅 2.5	厚さ 0.1~0.25			(内)内: 褐色 内: 田輪注コナデ	褐色粒子・白色粒子・角閃石 0.5~1mm多量		内: 一部スス付裏
102 SK-29	磁器・直?		(2.2)		ロクロ	透析窓				重さ1kg
103 SK-29	土師質土器・直	(11.6)	2	(7.4)	ロクロ		(内)内: 田輪注コナデ	長石 石英 0.5~1mm多量		伝統形式
104 SK-29	板状青銅鋳物	横 (2.3)	横 (14.5)				(内)内: ふく 内: 黄褐色~ 褐色	赤色粒子 白色粒子 各0.5mm多量		内縫付窓: 金切り機
105 SK-30	瓦質土器・直		(3.2)				口縁部: ヨクナデ 内 半ナメ 外: ハウガズリ	赤色粒子 白色粒子 各0.5mm多量		(内)スス付裏
106 SK-30	骨	最大幅 (6.7)								牛か馬か?
107 SK-31	須恵器・直?	(10.0)	2.0		ロクロ	透析窓	馬?	灰褐色・灰 褐色		伝統形式
108 SK-31	陶器・直		(3.1)	(8.5)	ロクロ	(内)白釉の渦巻文様		明褐色	白色粒子 0.5mm少量	渦巻文
109 SD-1	陶器・壺		6		ロクロ		ナメ	白色粒子 0.5mm中量	直通部	牛の目
110 SD-1	土師質土器・直		(3.8)				内: クレム(幅2cm, 7mm)	褐色	白色粒子 0.5mm少量	牛の目
111 SD-1	土師質土器・直?		(2.0)	(5.6)	ロクロ			褐色	白色粒子 0.5mm少量	伝統形式

第3表 出土遺物観察表

遺物番号	遺構番号	器種・種別	法量(㎤)		成形	絵付跡面	文様(調整)	色調	胎土	備考	
			口径	底面							
112	SD-2	磁器・小杯	(3.0)	(3.0)	ロクロ	朱付・西朝物	高台中央に弧あい舟輪	淡褐色調 青	高台脚部に粉粒付着		
113	SD-2	磁器・碗	(4.0)	(4.0)	ロクロ	朱付・唐物輪	織紋	淡褐色調 淡青色	反転復元	高台に粉粒付着	
114	SD-2	磁器・晩付油壺	最大径 (4.4)	(4.0)	ロクロ	透明物 色鉄:赤-茶-黒-薄緑	丸文(内実、他) -輪郭(周部に三重、高台 に一重)				
115	SD-2	磁器・鉢?皿?		(4.3)	ロクロ 笠型5	朱付・透明物	唐草	淡褐色調 青 灰色			
116	SD-2	陶器・灰	(1.9)		ロクロ	透明物		灰白色			
117	SD-2	陶器・灰	(3.5)		ロクロ	朱付・内(外)反輪?	外 織紋 他	真黄色調 灰色			
118	SD-2	陶器・不透明	(5.0)	(1.6)	ロクロ	透明物 色鉄:黄(足部に何かの 形)		真黄色調 緑-灰			
119	SD-2	陶器・織紋		(3.3)	ロクロ		に点し裏場 色	赤色粒子 0.5~1cm大少 白色粒子 0.5~1cm中量	製作地:備前 内 色鉄:白 口縁部に沈縫工法		
120	SD-2	陶器・織紋		(3.5)	ロクロ			赤褐色	赤色粒子-白色粒子 0.5mm大少	製作地:備前 内 色目(2cm)×本体(3cm)	
121	SD-2	陶器・灰	(10.4)	2.75	(2.6)	基面輪?		灰白色		反転復元 見込 9号窓あり	
122	SD-2	陶器・丸ちり文(?) (2.4)	2.0	高さ 0.5	打ち立え	上部 基面 下部 西朝物					
123	SD-2	土師質土器・盤	(11.4)	3.3	ロクロ		に点し裏場 色	黑色粒子 0.5mm大少			
124	SD-2	土師質土器・盤	(3.6)	1.6	ロクロ			黑色粒子 0.5mm大少			
125	SD-2	土師質土器・人形	最大幅 4.5	(3.4)	空打ち	朱付	透明物	灰白	朱色身 0.5mm大少	東洋の人物	
126	SD-2	土師質土器・織紋	5.7							黒色	
127	SD-2	織製品・小納?	長さ 9.3							重さ7g	
128	SD-3	陶器・灰		(2.3)	ロクロ	透明物				外・内 赤色あり	
129	SD-3	瓦質土器・埴輪	9.2	1.5	4.8	手取口 リヤマ	に点し裏場 色	赤色粒子 0.5mm大少 石英 0.5~1cm大少	外・破壊による崩壊		
130	SD-3	瓦質土器・壺	(1.5)		ロクロ			灰			
131	SD-3	瓦質土器・壺	(4.0)		ロクロ	内部面 ハケ目					
132	SD-3	瓦質土器・壺	(11.0)		ロクロ	内(外)によるテナ ル・ハラクズ(?)の丸ナデ		白色粒子 0.5mm大少			
133	SD-3	淡褐色質土器・壺?	(14.4)	(4.0)				(外・内)裏場 色	白(色粒子 0.5~1cm大少 黒色) 壁斑は何か不明	反転復元 0.5mm~1cmほどどの黒い斑が全体的にあ る(土器の中の物が剥げたかしたもの?)	
134	SD-3	織製品・織籠(取 口)	長さ 6.3							口縁部分が上方に曲曲	
135	SD-4	陶器・灰	(0.5)	(3.2)	ロクロ	透明物					
136	SD-4	土師質土器・盤	8.8	2.2	6.2	ロクロ		に点し裏場 色			
137	SD-4	土師質土器・盤	11.2	2.7	7.6	ロクロ		朱色身			
138	SD-4	土師質土器・壺?		(0.8)	ロクロ			黑色粒子 0.5mm大少			
139	SD-4	鐵製品・小壺	最大幅 (13.2)	(11.7)				灰白色	石英 0.5mm大少	製作地:高麗	
140	調査区北2北2	磁器・灰	(4.3)		ロクロ					うらし模様があり	
141	調査区北2北2	磁器・葉型碗	(3.0)	8.1	(3.0)	内:透明物 外:象鼻-透明物	外 空絞り口 漆墨支点 部、茎部、基面	灰白		反転復元 高台内側:粉目銀あり	
142	調査区北2北2	磁器・灰		(3.0)		青磁	発込:片割り(底?壁?) →鉢形			付合き(おそらく?) 高台内側:粉目銀あり	
143	調査区北2北2	磁器・灰		3.2	ロクロ	透明物					
144	調査区北2北2	磁器・灰		7.1		内:透明物 外:絞り口、縦縫 かみ、茎部、上の輪の混 ざった肩?、内縫	発込:花			・高台内側に漆の流れ込みあり ・高台に粉目銀あり	
145	調査区北2北2	磁器・灰		(3.3)		内:反輪か? 外:一輪輪					
146	調査区北2北2	磁器・贋着手	(5.0)	4.1	(2.2)	外:青磁		灰白色		反転復元	
147	調査区北2北2	磁器・灰	(14.2)	(5.9)		鉢身? (内は鉢身?) と土色の施釉の受け 分け				反転復元	
148	調査区北2北2	磁器・灰		(3.6)	13.7	ロクロ	透明物 内:反輪	純灰		反転復元	
149	調査区北2北2	磁器・灰		(4.1)	(6.0)	内:鉢身?				反転復元	
150	調査区北2北2	磁器・灰	(12.6)	3.4	(4.0)	基面輪?		灰白色		反転復元 見込 9号窓あり	
151	調査区北2北2	磁器・灰		(7.3)	(15.0)	内:反輪? 外:鉢身と鉢身の掛け 分け		前赤褐色と 赤色が混 じなっており	石英 0.1~0.6cm大少 石英 0.1~1cm中量	反転復元	
152	調査区北2北2	磁器・青呂	(15.4)	(4.7)		薄く、薄った水色		に点し裏場 色		反転復元	
153	調査区北2北2	土師器・壺	(10.3)	1.7	(8.2)	ロクロ	回転ナ子	黃灰	白色粒子 0.1~3cm大少 石英 0.1~1cm中量 石英 0.5mm大少	底部:角切り端	
154	調査区北2北2	磁器・水差		(3.5)		内:緞かつた黒い輪 縫(縫)?、青い縫 縫が全体的に掛かって いる。 緞かつた黒い輪 縫(縫)?が部分的に掛 かっている		黃褐色			上野・高瀬系
155	調査区北2北2	土師質土器・壺	10.6	2.5	6.6	ロクロ	内:外 回転ナ子 底面に砂粗木を渡る	淡褐色	赤色粒子 0.1~0.2cm大少 赤色粒子 0.1~0.3cm中量	朱灰付 底面:赤切り端	
156	調査区北2北2	土師質土器・埴輪	5.5	8.5	5.1	ロクロ		に点し裏場 色			
157	調査区北2北2	土師質土器・埴輪		(8.7)			内:に点し 外:赤				
158	調査区北2北2	土師質土器・ねじ輪		(10.5)		ロクロ	-ハラクズ/ -ガキのナチナ	に点し裏場 色	赤色粒子 0.1~0.2cm大少 赤色粒子 0.1~0.3cm中量	内全体にスス付着	
159	調査区北2北2	磁器・貯食通	2.5	0.1							
160	検出件	磁器・小皿		2.6		ロクロ	朱付・西朝物	赤子文-織紋			
161	検出件	磁器・小杯		(4.3)		ロクロ	透明物-縦縫隙				
162	検出件	磁器・灰	(12.0)	6.2	(4.2)	ロクロ	朱付・透明物	向方樽	真黄色調 青 灰	反転復元 高台に粉目銀あり	

第4表 出土遺物観察表

遺物番号	遺構番号	器種・種別	法面(cm)		成形	絵付跡面	文様(調整)	色調	胎土	備考	
			口径	底深							
163	柱脚	磁器-瓶	(11.0)	(4.0)	ロクロ	染付-透明釉	山形萬葉図 口縁二重繩緒		伝統復元		
164	柱脚	磁器-瓶	(4.0)		ロクロ	染付-透明釉	二重繩緒	伝統復元			
165	上用具出井	陶器-皿	(2.0)			(内)～(外)上部 透明		灰青			
166	上用具出井	陶器-碗	(11.4)	7.5	5	透明釉		灰青			
167	上用具出井	陶器-不規	(2.3)	(4.0)	ロクロ	染付-透明釉	縁		真入り 黒入り 白入り (内-外) 真入り		
168	上用具出井	陶器-杯	(3.7)			(内) 内上部に刻文?		褐色		口縁が輪花形に造りついている	
169	上用具出井	陶器-火入れ	(3.7)			(内) 上部～(外) 斧形 等?		に似た黄緑			
170	上用具出井	陶器-壺	(8.7)					赤茶			
171	上用具出井	陶器-壺	(8.1)			口縁鉢脚あり		褐色		製作地 不詳 底径 4.0cm幅に10条 底径 1.8cm幅に1条	
172	上用具出井	陶器-壺	(7.2)	2.7	3.5	ロクロ?	上部に一筋の縦を輪 状の輪花形を形成	灰白		下縁に竹口に書寫模様の痕か?	
173	上用具出井	陶器-壺	7.6	1.65	2.8	ロクロ?	・見る山の輪花形と灰 白の波状色分けあり ・輪形 等なし	透黄青		直筒 並り底あり	
174	上用具出井	陶器-量々?	(7.3)					灰白			
175	上用具出井	陶器-量	(3.6)			内 透明釉? (白) 他の 窓(内) ハスジあり 外 錫釉		灰青			
176	上用具出井	陶器-量?	(4.3)					灰青		外、下部に貼り付きあり	
177	上用具出井	陶器-便利	(16.0)	6			皆無縁 七輪押(希 薄手) 三の輪 四の輪のくぼみあり	褐色		輪口に細い溝 (外-内) 1cm幅 (内-外) 0.5cm幅の凹凸2本あり	
178	上用具出井	土師質土器-壺	(10.4)	2.8	(3.1)			(内-外) 1cm厚 縁	伝統復元		
179	上用具出井	土師質土器-壺	(10.4)	2	(9.6)			(内-外) 布施 縁	伝統復元		
180	上用具出井	土師質土器-鉢	(5.5)			外 透明白釉に平行タキ	石高 0.1m大容量 (内-外) 1cm厚	外 全体的にスリ付裏 内 1cm厚			
181	上用具出井	須志器-不規	(2.6)		ロクロ			白子(内) 1cm厚 白子地子 0.5~2mm大容量 石高 1cm大容量			
182	12-L	磁器-碗	(11.0)	(3.4)		染付-透明釉	外-口縁部 同縁2枚	高透青色 淡 い紫色	伝統復元		
183	12-L	磁器-碗	(8.1)		ロクロ	染付-透明釉					
184	12-L	磁器-碗	(5.1)		ロクロ	染付-透明釉	外-花に唐草? 二重繩緒	高透青色 淡 い紫色			
185	12-L	磁器-温	(3.4)	(9.4)		染付-透明釉	(内) 各種文字? (外) 三重繩緒	高透青色 淡 い紫色	伝統復元 (内) 下部に鉛色があり		
186	12-L	磁器-碗	(9.5)	4.1		透明釉		白子地子 0.5~2mm大容量 石高 1cm大容量	台付の内側に毎日便あり		
187	12-L	土師質土器-壺	9.4	1.4	6.8			白子地子 白色粒子 角石 (?) 色0.5~1mm大容量	口縁部にスリが付裏		
188	21-L	磁器-碗	9.8	5.5	4.2	ロクロ	染付-透明釉	高透青色 青 灰色	口縁部は丸吹		
189	21-L	磁器-碗	(3.4)		ロクロ	内 染付-透明釉 外 朱漆	外 純白	高透青色 淡 い紫色			
190	21-L	磁器-碗	(3.3)	(3.8)	ロクロ	透明釉	内 二重繩緒と松竹梅 外 朱漆	高透青色 淡 い紫色	唐草が強あり		
191	21-L	磁器-碗				ロクロ	内 内見込に染付 透明釉	二重円	高透青色 淡 い紫色	島台に毎日	
192	21-L	磁器-碗	(9.6)	5.9	3.8	ロクロ	(内) 染付-透明釉	牡丹の花文様	高透青色 淡 い紫色	伝統復元	
193	21-L	陶器-皿	(4.7)		ロクロ	灰	内 反射鏡に色々 外 反射鏡の上に付ける 色	反射鏡	製作地 渡津		
194	21-L	陶器-皿	(3.7)	(3.0)	ロクロ	透明釉		透明釉	内 蓋入り		
195	21-L	瓦質土器-壺	(8.8)		ロクロ		外 梅子子牛乳				
196	12-L	磁器-温	(2.2)			内 染付-透明釉 墨書き部分 一部剥落か?	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	島台内に~4mmの茶色の貼り付きあ り(内-外)		
197	12-L	磁器-碗	(3.3)	4.5			二重縁		貼付きに砂 日晒あり		
198	12-L	磁器-碗	(4.3)		外 朱漆	外 内 透明釉	高透青色 淡 い紫色				
199	12-L	磁器-小杯	(8.2)	5.7	(3.4)	染付-透明釉	内 染付-透明釉 外 方角の墨書き部分 一部剥落か?	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	島台内に~4mmの茶色の貼り付きあ り(内-外)	
200	12-L	磁器-青磁大壺	(20.7)	4.4	(14.4)	ロクロ	灰	内 漆付	内 漆付	製作地 宮原系? 蓋入り	
201	12-L	陶器-碗	(3.7)		ロクロ		内-内 透明釉(黄色?) 真入り	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	島台内が所切られている	
202	12-L	陶器-碗	(4.6)			内-内 透明釉(黄色?) 真入り	内 自然釉が残る 外 葵形に緑色の釉で 模様あり	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	島台内が所切れて豆玉木にしてある	
203	12-L	陶器-碗	(10.6)	3.3	(4.9)	透明釉		高透青色	高透青色 淡 い紫色	反光鏡 蓋入り	
204	12-L	陶器-火入れ	(15.0)	5.7	(6.0)	ロクロ(ヘ リコリ)	口縁に蘇鉢か?	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	反光鏡 蓋入り	
205	12-L	陶器-碗(火入れ?)	(3.0)	(6.3)	ロクロ(ヘ リコリ)	内 自然釉が残る 外 葵形に緑色の釉で 模様あり	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	高透青色 淡 い紫色	反光鏡 蓋入り	
206	12-L	陶器-火入れ	(34.8)	8.7	9.5	ロクロ	白土-透明釉-色鉢 (裏-青)	内 漆の花	に似た黄緑 色	反光鏡 蓋入り	
207	12-L	土師質土器-温多 の皿	最大径 7.3	2	手づくね		上部に折痕あり	(内-外) 程 チャート壁 5mm大約		製作地 宮原系? 蓋入り	
208	12-L	土師質土器-鉢	(3.2)					赤色粒子 0.2~1mm大容量 (内-外) 程 チャート壁 5mm大容量			
209	12-L	土師質土器-温多 の鍋	(4.2)		ロクロ			赤色粒子 赤色粒子 0.1mm大容量			
210	12-L	軒丸瓦	瓦当縁 (15.0)	1.9	瓦当縁	瓦当縁				左三巴(椎存焼造) (右 全12件?)	
211	12-L	軒丸瓦	2.7	1.8	瓦当縁	瓦当縁				-三巴(文殊、釋迦、金剛) (左 全12件?)	



調査区（上層）全景（東から）



調査区（中層）全景（東から）



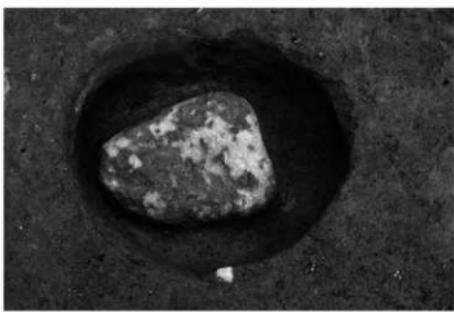
SK-4遺物出土状況（東から）



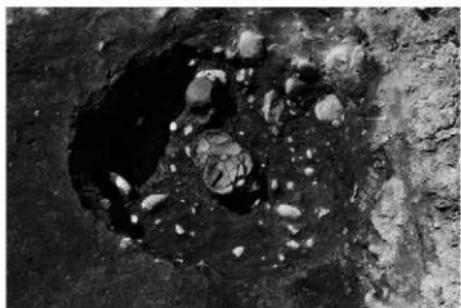
SK-9完掘状況（東から）



SK-11遺物出土状況（南から）



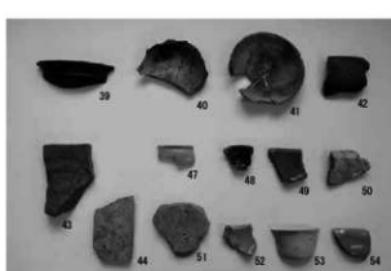
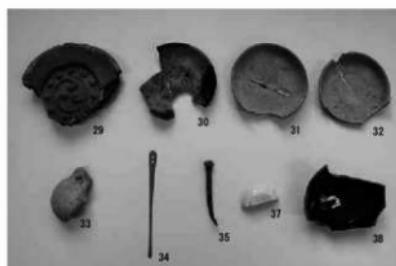
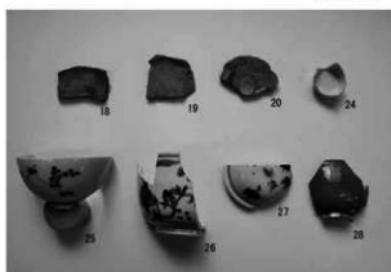
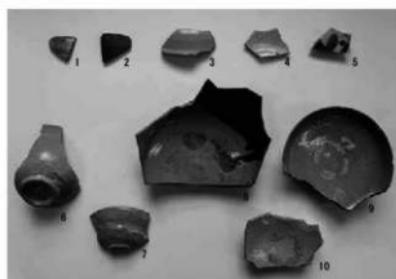
SK-15完掘状況（東から）



SK-28遺物出土状況（東から）



SD-3完掘状況（西から）



出土 遺 物

## 報告書抄録

書名	中津城下町遺跡 27次調査							
副書名	集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	中津市文化財調査報告							
シリーズ番号	第111集							
編著者名	浦井直幸							
編集機関	中津市教育委員会							
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町 14番地3 Tel:0979-22-1111							
発行年月日	2022年3月31日							
所取遺跡名	所在地	市町コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中津城下町遺跡 27次調査	大分県中津市 1516番地 1(京町)	44203	203002	33°36'10"	131°11'11"	20140821～ 20140918	100	集合住宅 建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中津城下町遺跡 27次調査	城下町	近世	土坑	陶磁器		17世紀代・18世紀後半 頃の土坑を確認した。		
要約	土坑約30基・火災処理土坑などを調査した。							

### 中津城下町遺跡 27次調査

集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

中津市文化財調査報告 第111集

令和4年3月31日

発行 中津市教育委員会

印刷 高橋印刷所